

# 営農だより



茶芽の生育 4月

宇治田原町

## <<<安全・安心な農産物生産は生産者の責任として>>>

農産物の農薬使用状況は、専用の帳簿（用紙）に記録し開示（提出）出来ることが必要です。京都府のブランド認証野菜は、記録の提出と記載内容の確認を行っています。他の出荷野菜も出荷先から記録有無・点検の結果証明を求められる事例が増加しています。更に、残留農薬検査にあつては、検査機関から検査に際し、記録の提出を要求されます。速やかな提出が信頼につながります。

掲載内容について、ご不明の点は最寄りの支店営農担当・営農経済センター  
または、本店 営農部営農指導課へお尋ね下さい。



本店営農部営農指導課	TEL (0774) 62-5890	FAX 62-9450
北部営農経済センター	TEL (0774) 64-7200	FAX 64-7205
南部営農経済センター	TEL (0774) 76-0003	FAX 76-0005

# 水 稲

## 早期早植栽培の育苗・田植と普通・晩植栽培の播種

### ◆早期・早植栽培の育苗と田植時期

播種に先立ち苗箱に育苗培土(自家製培土は育苗肥料を混合)を入れ準備をしておきます。

播種: 7~10日浸種した種籾は発芽を揃えるため 28~30℃で1昼夜ほど保温し、白い芽が籾から盛り上がる(鳩胸)程度に催芽して播種します。催芽が進み過ぎると播種の際に芽が欠けて生育しなくなるので注意が必要です。

播種時期は温度管理が適正であれば田植予定時期の21~26日前を基準とします。

播種量の基準は表1を参考にしてください。

なお、厚播きすると苗質が低下するだけでなく田植可能期間が短くなります。均一な薄播きに努め、良質苗を育成しましょう。

表1 箱当たり播種量(ばらまき)

早期・早植栽培(キヌヒカリ・コシヒカリ)

乾燥籾 畝別140~145g 畝別

催芽籾 畝別175~185g 畝別

普通・晩植栽培(ヒノヒカリ)

乾燥籾 肥沃地115~135g 浅耕地

催芽籾 肥沃地150~170g 浅耕地

育苗の温度管理は表2を参考にしてください。本田準備は植付け予定に合わせて行います。

山間部の早植栽培地域では、茶摘み・製茶時期の2週間程度前に田植えが始まり、茶摘みまでに終わるのが一般的です。

育苗目標は表3を基準としてください。

表2 育苗の温度管理

区分	期間	昼間	夜間
育苗器	出芽2日	30℃	30℃
	予備緑化2日	22~25℃	15~18℃
ハウス トンネル	緑化期間 10~12日	22~25℃	15~18℃
同上又は 露地	硬化期間 5~7日	18~20℃	12~15℃

育苗の温度管理は比較的適切に行われますが、田植を始める4月下旬は平年の平均気温14~15℃、水温12・3℃の時期です。

稲の生育停止温度は12℃であり、山間部や谷水の場合はこれ以下となるため、水温を確保することが重要となります。このため、水温が出来るだけ高くなるよう、田植後の水の補充は減水分に抑えます。“かけ流し”は禁物です。水温が低いと苗の生育が停滞し、生育しないため苗は衰弱します。

水管理は適切に行い生育を促進しましょう。

### ◆普通・晩植栽培の播種

播種期は植付予定の25~30日前の4月末から5月上旬頃です。苗代でトンネル育苗または、パイプハウス育苗などを行います。

播種は浸種した籾を発芽が揃うよう催芽して播種します。箱当たりの播種量は表1を基準とし厚播きにならないよう留意します。

庭先等の暖かい場所に播種・灌水・覆土を終えた苗箱10枚程度ごとに積み上げ、筵等を被せた上を更にシートを掛け、2~4日間保温した後、発芽を確認して床出しすると発芽が揃いやすくなります。

温度管理は表2を参考に12℃以上33℃以下とします。

表3 標準的な育苗目標

区分	草丈 (cm)	本葉 数	育苗 日数	留意事項等
早 植	12 ~ 13	2.0 ~ 2.3	21 ~ 25日	移植適期は2.2葉期適期を過ぎると苗質が低下します。
	普通 植	15 ~ 20	3.5 ~ 4.5	

この時期は 気温変動が大きいので気象経過に留意します。普通植の育苗では、晴天日の日中に被覆内部が35℃以上の高温で葉先を焼くことがしばしばあります。天候に注意し換気しましょう。また、降霜の恐れがなくなればトンネルを除去します。パイプハウスの場合は、開放するか露地へ移して育苗します。ハウスや庭先等の露地育苗の場合は乾燥して萎れないよう、灌水を適切に行い、健苗育成に努めましょう。

# 野菜

## 野菜の作付けと初期管理

### ◆ハウスとうがらしの管理

パイプハウス栽培の万願寺とうがらしや伏見とうがらしは3月上旬から4月上旬までの間に定植されています。定植後の温度管理は生育と着果を左右します。定植後7～10日間は蒸し込み根つきを図ります。その後、17℃～33℃の間で生育するようにハウスの開閉と畝の水管理を行います。

サイド換気を開始する前に、冷気が株元を抜けないよう内側に障壁を張ります。

植付の早いものから支柱立て、わき芽の摘除、主枝4本(2×2)の決定・不要な枝の整理と重要な時期となります。主枝を直立させた状態では徒長しますので、主枝決定後、20～25cm伸びた頃に枝を広げて誘引します。先端の生長点は常に上に向けて樹勢を保ちます。正常な果実が1・2個着果し第3果実が3cm程度になれば、変形している1番果を除去し、その後残る奇形果も摘果します。果実が生長し色濃く・艶があり・硬さが適度に増せば収穫を始めます。収穫開始後樹勢を見ながら第1回追肥を株間の畝肩に穴をあけ施します。2回目以降は2週間程度の間隔で行います。

病害虫対策：植付時にベストガード粒剤を1～2gを植穴処理してアブラムシ類、ミナミキイロアザミウマを予防します。誘引棚を設置後に出入口付近・中央・奥の3か所に黄色と青色の粘着トラップを2～3枚ずつ作物の高さに設置してモニタリングし、前記やコナジラミ類の捕獲されたら、その付近にトラップを増設し捕獲防除します。

それでも発生が増加する場合はコルト顆粒水和、モベントフロアブルのいずれかで防除します。

### ◆トンネル早熟なすの定植と管理

4月上旬植付を目標に畝の準備が出来れば1週間位前から灌水後トンネル被覆を行い温めておきます。

定植は風が無い晴天日に行い、植付の進行と合わせて灌水を行い、午後3時頃まで作業を終わらしましょう。天気変動が大きい時期ですが、トンネル内温度は16℃～33℃の範囲で管理できることが望ましいです。畝が乾燥しないよう水分保持すると保温にも効果があります。晴天が続く場合は管理に支障のない程度に畝間灌水をします。

晴天時にトンネル内が35℃を超える場合は換気を行いましょう。

病害虫対策：植付時に表4の農薬でネキリムシ類・アブラムシ類等の予防を行います。

近年は風の強い日がありますのでトンネルの吹き開きに注意します。仮支柱は出来れば植付時または、トンネル除去までに設置すると除去後の作業が順調に進められます。未設置の場合はトンネル除去後速やかに仮支柱を行い、その後に本支柱を設置します。

表4 ナス植付時処理農薬(上段・下段 各1剤)

カルホス粉剤	6kg/10a	表面混和	ネキリムシ類
プレバソン粒	1g/株	株元散布	ネキリムシ類
アクタラ粒5	1g/株	植穴混和	アブラムシ類
ダントツ粒	1g/株	植穴混和	アブラムシ類 マハダグリバエ コナジラミ類

### ◆えびいもの苗づくり

栽培期間を長くすることで増収することから、5月の連休前後に3葉程度の苗を植え付けることを目指して、4月10日頃から育苗を始めます。

昨年から保存してきた種芋は早急に点検し、不良品(腐敗)を除き、芽の準備が出来ている芋と出来てない芋に分けます。芽の準備ができていない芋は16～17℃に1週間ほど保温し催芽を図ります。なお、種芋が乾燥している場合は濡れ新聞に挟み吸水と催芽を図ります。

種芋はベンレートT水和20の20倍液に1分間浸漬し、種芋伝染病害を予防します。

育苗は直径9～12cmのポットに市販の育苗培土又は自家製培土を入れて行います。種芋は1芽を残し、他を摘除して植えて、ポットは育苗箱やトロ箱に入れ、ハウスまたはビニールトンネル(高さ:50cm以上、幅:箱の並べ幅+30cm)内で灌水後被覆保温します。鉢土が乾燥しないよう灌水を心掛け、15～33℃の範囲で管理し、ハウス・トンネル内の温度が超える場合は換気します。

定植する本ばは、4年以上里芋・えびいものを栽培していない田を選びます。畝間灌水の出来ない畑地は栽培に適しません。

定植は4月下旬から 平均気温が15℃以上で行いますが、5月前半に低温が予想される場合は、定植を遅らせた方が順調な生育が望めます。

### ◆葉ネギの病害虫

4月中旬頃からアブラムシ類、アザミウマ類などが活動を始めますので、発生に注意し、認められた場合はアグロスリン乳剤、グレーシア乳剤などで防除します。

# 茶 樹

## 4月の茶園管理と病害虫防除

### ◆防霜対策の点検と茶園管理

今年は3月7日頃まで寒い日が続きましたが、その後は次第に暖かくなりました。茶樹の萌芽は4月第1半旬か平年並みでは？と感じられます。萌芽後は順調であることを期待しますが、やはり霜が気になるところです。北の寒気が少し南下するのと高気圧の張り出しが重なると、夕方からの気温低下と夜間の放射冷却が重なり霜害のリスクが高まります。気象情報に留意して対策を行いましょう。霜害の出やすい茶園では、防霜ファンの位置と茶株面との日の出前の最低気温差がどの位あるのか、一度測定確認することも必要ではないでしょうか。温度差が少ない場合ファンの効果が低くなります。

防霜ファンの点検や高棚被覆設置側幕の点検は完了していますか？

### ◎芽出肥の施用

3月末～4月始めに施用されます。使用肥料は茶種や地域により予約配布された肥料を施用してください。使用される肥料は、碾茶・玉露では千代田 549、チャデル、かぶせ茶ではヨーデル、グリーンヨーデル、ロングヨーデル、煎茶では煎茶ロング、チャデル、マグ硫安ほかかぶせ茶と同じ肥料が使われます。

### ◆病害虫と防除

#### ◎ツマグロカスミガメ

一番茶、二番茶の新芽生育期に発生するため被害に及びます。成虫幼虫とも新芽開葉前に加害し、1匹の加害量が大きいので、低密度の発生で成虫・幼虫の発見が困難であり、切れ葉・穴開き葉・奇形葉の被害になります。

卵で越冬し年3回発生します。第1回の1齢幼

虫の発生は4月上中旬からで、防除は被害が多い園では4月中下旬の新芽生育期前半です

防除農薬は表5を参考にホソガと同時防除してください。

アルバリン 顆溶	2000倍	7日前/2回
カスケード フ	4000倍	7日前/2回
キラップ フ	2000倍	7日前/1回
コテツ フ	2000倍	7日前/2回
ダントツ 溶	2000～4000	7日前/1回

#### ◎チャノホソガ

年5回発生し、古葉の裏面で蛹が越冬します。4月上旬から成虫が発生し、中下旬に新芽が展開すると葉裏の葉脈に囲まれた皮下に1卵ずつ産卵します。新葉の裏を見ると産卵部分の皮膜が浮き上がり、半透明になっています。孵化した幼虫が葉の中を湾曲線上状に潜行食害し、葉の縁に達すると葉を一部折り曲げ内側で食害後別の葉に移り三角に折り曲げ食害します。このため、サンカクハマキとも呼ばれます。防除は幼虫が葉内を潜行している期間内に行います。

防除農薬は表6のとおりです。

#### ◎カンザワハダニ

2月下旬～3月始めに平均気温が8℃位で休眠から覚めます。体色が朱色→濃赤色になると産卵を始めます。1世代は3月産卵で50日、8月では9日なります。3月の萌芽前に防除を徹底して、一番茶では防除を行わず、摘採後に防除します。

発生が多く防除が必要になった場合はサンクリスタル乳剤、粘着くん液剤を早目に散布します。



チャノホソガ 幼虫・三角葉巻  
ツマグロカスミガメ×10



カンザワハダニ (赤い点)